

図書館を活用しよう！—新入生・新ゼミ生のための図書館ガイド—

岸 田 真（専任講師 日本経済史）

新年度を迎え、新入生の皆さんはもちろんのこと、上級生の皆さんも心を新たにしていることでしょう。そこで、初めて図書館を利用する1年生、また、これからゼミナールにおいて本格的に図書館を利用する2年生を対象に、図書館の利用について、私なりの考えを書いてみようと思います。

■大学図書館は「知のデータベース」

皆さんは、これまでに「図書館」「図書室」をどのように利用してきたでしょうか。多くの人は、「静かに勉強をする場所」、あるいは、「本を借りる場所」というイメージを思い浮かべるでしょう。もちろん、これらは図書館の基本的な役割ですが、大学の図書館には、それ以上に重要な役割があります。大学では、単に新しい知識を増やすだけでなく、与えられた課題について自分の力で情報を集めて答えを導き出す、あるいは、課題そのものを自分で発見し、それを解決させてゆくことが求められます。図書館は、こうした「知的生産活動」を支える情報源、「知のデータベース」としての役割を担っているのです。

■図書館にある「情報」

では、大学図書館が持つ「情報」には何があるのでしょうか。図書館が保有する情報は、書店にもあるような一般図書だけではありません。経済学部図書館には、国内外の新聞や専門雑誌、また、人口、賃金、物価、貿易などの統計、企業の有価証券報告書など、実際の経済・経営活動を知るための様々な資料やデータが揃えられています。

さらに、100年余りの歴史を持つ経済学部の図書館には、その分の図書・資料の蓄積があります。例えば、日本の経済雑誌の一つ『東洋経済新報』は、1895（明治28）年の創刊号から現在までの全てを所蔵しており、英国の有名な経済雑誌『エコノミスト *The Economist*』も、1843年（江戸時代末期！）の創刊号から最新号までをほぼ網羅しています。現代の経済問題はもちろん、過去にどのような経済問題があったのか、ということについても図書館は情報を提供してくれるのです。

■情報のアクセス方法を身につけよう

これまで述べたように、図書館には経済・経営を学び、活用するための多種多様な「情報」が蓄積されています。これらを活用するには、膨大な情報の中から必要な情報を見つけ出す作業が必要になります。とはいえ、現在、図書館が所蔵する資料の情報、あるいは、国内外で出版されている図書や雑誌の情報は、コンピュータを利用して簡単に検索することができます。詳しくは、図書館が配布している『図書館利用案内』に掲載されていますので、参考にしてください。

■「情報に関するルール」の重要性

最後に、皆さんに十分に注意して欲しいことがあります。それは、「情報の利用に関するルール」を守る、ということです。図書館に所蔵されている図書・資料・データには、著者・作成者の著作権が保障されています。他者が書いた文章をそのまま自分のレポートや論文にコピーしたり、他者のアイデアを自分のアイデアのように用いたりすることは、「剽窃」と呼ばれる不正な行為です。レポートなどで図書や資料を用いる場合は、参照した資料・文献を明記し、文章をそのまま用いるときには「引用した」ということを示す必要があります。こうした「情報利用のルール」については、基礎研究やゼミナールの授業の中で、しっかりと学習するようにしてください。